文化の意義

阪神淡路大震災から今年で15年が経ちました。当時私は堂島にある大日本印刷のギャラリー運営を担当していました。

震災から1か月後のある日のことです。年輩のご婦人たちがお見えになり、静かに作品をご覧になられました。そして、帰り際にある言葉を残されたのです。「私たちは震災で被災し、今日ここで初めて心を癒されました。明日から生きる元気をいただきありがとうございました」と。これを聞いて、私たちが続けてきた活動は、地味ながらもこんな効果があったのだと大変感動を覚えました。

また、震災後に上演された演劇に、山崎正和氏プロデュースの『GHETTO/ゲットー』という作品がございました。それは、明日はナチスに殺されるかもしれないという極限状態に立たされながらも、リトアニア居住区でユダヤ人たちが劇団を作り公演を続けるという話でした。あのような状況下でも文化を求め、それこそが自分たちの生きる証だという内容に強い衝撃を受けたものです。最近は某知事による文化施設廃止の施策なども聞こえてきますが、震災のような体験をしますと、社会生活において文化がいかに欠かせないものであるかと、つくづく実感します。

新たな政策ビジョン

しかしながら、一昨年の秋から始まった経済的な混乱は、私たちの生活のさまざまな場面に影響を及ぼし、文化の活動にまで及んできていることは大変残念なことです。

本来、私たちの日々の社会活動や経済活動は、社会を構成する一人ひとりに幸せをもたらさなければならず、また、これを目標にしなくてはならないはずです。しかし、こうした状況に至ったのは、社会全体が経済的な価値だけを評価し、博打に近い投資競争を繰り広げた結果、破綻してしまったことが原因ではないかと思っております。経済的な成功だけで、「勝ち組」や「負け組」といった評価が下されてしまう状況にまでなってきている。これは不自然であり、健全な状態にあるとはとてもいえません。

そこで私たち企業メセナ協議会は、これまでと同じようなやり方や枠組みで社会再建を目指すのではなく、社会再生の基本理念や枠組みを大胆に変えていくことが必要だと考えました。そうして社会創造のための緊急提言として『ニュー・コンパクト』という地域再生政策ビジョンを発表し、政界はもとより各界に訴えてきたのです。

“コンパクト（COMPACT）”とは、（Community Policy for Action）の頭文字をとった造語です。もともと“小さくまとまった”という意味もあり、また、国連や英国の政策用語でもあります。私たちは今こそ壊れてしまったバーチャルで巨大な社会像から脱却し、等身大の持続性のある社会を作り出していく必要があります。そのためには、このニュー・コンパクトという地域再生政策ビジョンにもあるように、文化への集中投資が急務であると主張しています。

社会創造の源泉

コンパクトな社会の基本はやはり地域であり、地域コミュニティの再生が不可欠です。だからこそ文化への集中投資は、地域に対して行われることが最も効果的な戦略であると考えます。

では、なぜ文化なのか。地域にある自然や歴史、伝統芸能などは貴重な資源であり、維持していくことは確かに大切です。しかし、それを新しい視点と創造力をもって活用していくためには、文化こそ新しい社会を創造するための新たなソフトを生み出す源泉であると考えたからです。住んでいる地域が快適で、さらにワクワクするような刺激に溢れた場所であれば、その地域外にいる人々が移り住み、「一緒にその刺激を享受したい」「あの活動に参加したい」という欲求が出てくる。それが地域の継続的な発展につながっていくだろうと考えます。都市文化というのは“スクラップ&ビルド”であり、いろんな刺激がぶつかり合い作り上げていくことがなにより必要なのではないかと思います。

5つの行動原則

そこで、ニュー・コンパクトによる集中投資を行うにあたって、5つの原則を考えました。

第一が「循環型社会の再生と創造」。循環型社会とは、自然環境との共生とともに地域ブランドなどの創出によって、下請け主体の産業や下請け都市から脱却すること。そして、基本的な社会サービスのほとんどが歩いていける範囲で充足するような社会のことであり、そのような循環